

山口 襄氏を悼む

去る9月29日、本学会名誉会員である山口襄氏が94才で逝去されました。ここに謹んで山口氏のご冥福をお祈り申し上げます。

山口氏は、昭和7年北海道帝国大学工学部電気工学科を卒業され、当時の東京電気（現在の東芝）に入社されました。通信機工場の工場長として在職中終戦を迎えられた直後、氏は通信機業界を対象に実施された日本最初の品質管理セミナーに参加されました。このセミナーで品質管理の重要性を認識され、間もなく社内で若い社員を中心に品質管理の勉強会を開催され、比較的短期間に成果を纏められました。山口氏はこのグループを中心に正式な組織を発足し、社内の管球、家電等の量産分野における品質管理の実施に力を尽くされ、また、研究して良い事は実施するという考えを遺憾なく発揮されました。昭和25年に生産技術の全社的な中心として新設された生産部の部長に就任されました。この部は同氏の意向によりQC、IE、OR等の新しい生産管理技術や切削、プレス等の製造技術の研究、教育及び実施に対する援助を行うもので、全社から若い技術者集めて事に当たらせました。当時としては斬新な組織で、新しい管理技術を社内に広め、品質管理を全社に普及させ、また非量産部門のQCの実施に貢献しましたが、これも同氏の先見の明によるものでした。山口氏はQCやORに深い理解と共感を持たれると同時に、ご自身も企業の組織に興味を持たれ、研鑽を積まれたと承っております。

昭和42年東芝の土光社長がOR学会の社長に就任された時期に会長の補佐として副会長に就任され、その後昭和48年に学会のフェロー、平成4年に名誉会員に選出されました。

山口氏は、経営者が決定に際して困習、経験、勘等に拠らずに合理的な決定が必要と考えて、その手法としてORの重要性を高く評価しておられました。しかし、経営のトップの要求に対応した実施例の発表は少なく、数式が横行するORの現状を深く憂い、しばしば苦言を伺ったことがありました。これは問題の性質上公開できないものが多い事、問題を解くことが容易でない事、しかし数式の重要性は無視できない事等を充分ご承知の上でのご発言であったと思われまふ。氏にとってはトップの要請に耐え得ないものは無用の長物であると考えておられたようです。「トップの決定を支援するのは、合理的な思考と新鮮なアイディアで



ある。これはORの教育を受けた人々が持っているはずだが」という言葉を伺ったことがありました。

今年函館の秋季研究発表会の特別講演で「学会の将来展望」と題して討論が行われましたが、その中心議題は奇しくも上に述べた内容と同一でした。「旧くて新しい」とはよく言ったものです。山口氏の苦言を解消することこそ学会の今後の仕事でしょう。

足がご不自由になった後は毎日庭の草木をスケッチするのを楽しみにしておられました。最後にお目にかかった時見たシクラメンの絵の色が今でも目に残っています。

ORのよき理解者であった山口氏に、心から改めてご冥福をお祈り申し上げます。
(原野秀永)

故山口 襄氏略歴

明治40年11月11日生まれ

〔学 歴〕

昭和7年3月 北海道帝国大学工学部電気工学科卒業

〔職 歴〕

昭和7年11月 東京電気株式会社入社

昭和25年5月 同社生産技術部長

昭和41年5月 東京芝浦電気株式会社取締役

昭和43年5月 同社常務取締役

昭和45年5月 同社監査役

昭和46年 東芝ベックマン株式会社社長

昭和41年 日本規格協会理事

〔受 賞〕

昭和38年 デミング賞受賞

昭和44年 藍綬褒章授賞

〔OR学会関係〕

評 議 員 昭和36～46年度

理 事(庶務) 昭和36～37年度、昭和39～40年度

副 会 長 昭和42～43年度

フェロー 昭和48年度

名 誉 会 員 平成4年度